

表 22. 薬剤師に提供して欲しい薬剤情報<薬剤管理指導業務上で得た情報>

	いる	いらない	どちらでもよい	備考
効果の評価	63	2	11	
	82.9%	2.6%	14.5%	
副作用の評価	64	2	10	
	84.2%	2.6%	13.2%	
患者の薬物治療に対する意識	63	0	13	
	82.9%	0.0%	17.1%	
患者のコンプライアンス	58	0	18	
	76.3%	0.0%	23.7%	
患者のアドヒアランス	59	0	16	無回答:1件
	77.6%	0.0%	21.1%	

(上段:件数、下段:比率)

表 23.年齢と経験(臨床心理士)

年齢	人数	割合
30歳未満	9	25.0%
30～39歳	18	50.0%
40～49歳	2	5.6%
50歳以上	6	16.7%

無回答:1件

2)精神科での経験年数

精神科での経験年数	人数	割合
5年未満	13	36.1%
5～10年	10	27.8%
11～15年	6	16.7%
16年以上	6	16.7%

無回答:1件

表 24. 薬剤師に提供して欲しい薬剤情報<薬剤の基本情報>

	いる	いない	どちらでもよい	備考
薬剤の特徴	35	0	1	
	97.2%	0.0%	2.8%	
薬理作用、作用機序	29	2	5	
	80.6%	5.6%	13.9%	
効能・効果	35	0	1	
	97.2%	0.0%	2.8%	
用法・用量	27	1	8	
	75.0%	2.8%	22.2%	
薬物体内動態	15	4	17	
	41.7%	11.1%	47.2%	
薬価	10	8	18	
	27.8%	22.2%	50.0%	
薬剤の管理方法	18	4	14	
	50.0%	11.1%	38.9%	

(上段:件数、下段:比率)

表 25. 薬剤師に提供して欲しい薬剤情報<臨床上重要となる基本情報>

	いる	いない	どちらでもよい	備考
薬物相互作用・禁忌	31	0	5	
	86.1%	0.0%	13.9%	
緊急安全性情報	24	3	9	
	66.7%	8.3%	25.0%	
注意すべき副作用	35	0	1	
	97.2%	0.0%	2.8%	
副作用の発現頻度	30	0	6	
	83.3%	0.0%	16.7%	
副作用が発現した時の対処法	33	0	3	
	91.7%	0.0%	8.3%	
効果発現までの時間	34	0	2	
	94.4%	0.0%	5.6%	
腎・肝機能障害時の投与量	8	8	20	
	22.2%	22.2%	55.6%	
催奇形成のカテゴリ	24	3	9	

	66.7%	8.3%	25.0%
高齢者への投与量	19	1	16
	52.8%	2.8%	44.4%
治療成績	22	4	10
	61.1%	11.1%	27.8%
等価換算量	8	8	20
	22.2%	22.2%	55.6%
薬の作用持続時間	29	1	無回答：2件
	80.6%	2.8%	11.1%

(上段：件数、下段：比率)

表 26. 薬剤師に提供して欲しい薬剤情報<薬剤管理指導業務上で得た情報>

	いる	いらない	どちらでもよい	備考
効果の評価	29	1	6	
	80.6%	2.8%	16.7%	
副作用の評価	27	0	9	
	75.0%	0.0%	25.0%	
患者の薬物治療に対する意識	28	2	6	
	77.8%	5.6%	16.7%	
患者のコンプライアンス	26	1	9	
	72.2%	2.8%	25.0%	
患者のアドヒアランス	26	2	8	
	72.2%	5.6%	22.2%	

(上段:件数、下段:比率)

表 27.年齢と経過(入院患者)

年齢	人数	割合
20歳未満	3	0.9%
20～29歳	18	5.4%
30～39歳	39	11.7%
40～49歳	61	18.4%
50歳以上	211	63.6%

通院年数	人数	割合
5年未満	69	20.8%
5～10年	60	18.1%
11～15年	41	12.3%
16年以上	162	48.8%

今回の入院期間	人数	割合
1ヶ月未満	28	8.4%
1～3ヶ月	57	17.2%

4～6ヶ月	26	7.8%
6ヶ月～1年	18	5.4%
1年以上	201	60.5%

表 28. 薬剤師から提供して欲しい薬剤情報(複数回答可)

	項目	人数	割合
1	薬の名前	205	61.7%
2	薬剤の特徴	158	47.6%
3	薬理作用、作用機序	202	60.8%
4	効能・効果	230	69.3%
5	用法・用量	155	46.7%
6	薬物体内動態	142	42.8%
7	薬価(薬の値段)	137	41.3%
8	薬剤の管理方法	94	28.3%
9	薬物相互作用・禁忌	175	52.7%
10	緊急安全性情報	137	41.3%
11	注意すべき副作用	203	61.1%

12	副作用の発現頻度	132	39.8%
13	副作用が発現した時の対処法	170	51.2%
14	効果発現までの時間	134	40.4%
15	腎・肝機能障害時の投与量	104	31.3%
16	催奇形成のカテゴリ	67	20.2%
17	高齢者への投与量	101	30.4%
18	治療成績	107	32.2%
19	再発のリスク	148	44.6%
20	服薬中止時に注意すべきこと	113	34.0%
21	薬が効いているのか	138	41.6%
22	副作用が出ていないのか	133	40.1%
23	薬の作用持続時間	118	35.5%

表 29. 年齢と経過(当事者・家族)

	人数	割合
当事者	171	56.8%
ご家族	130	43.2%

年齢(家族)	人数	割合
20歳未満	0	0.0%
20～29歳	1	0.8%
30～39歳	5	3.8%
40～49歳	14	10.8%
50歳以上	110	84.6%

年齢(当事者)	人数	割合
20歳未満	1	0.6%
20～29歳	16	9.4%
30～39歳	48	28.1%
40～49歳	52	30.4%
50歳以上	54	31.6%

通院年数	人数	割合
5年未満	22	7.3%
5～10年	56	18.6%
11～15年	69	22.9%
16年以上	154	51.2%

表 30. 薬剤師から提供して欲しい薬剤情報(複数回答可)

	項目	人数	割合
1	薬の名前	148	49.2%
2	薬剤の特徴	161	53.5%
3	薬理作用、作用機序	170	56.5%
4	効能・効果	192	63.8%
5	用法・用量	118	39.2%
6	薬物体内動態	124	41.2%
7	薬価(薬の値段)	87	28.9%
8	薬剤の管理方法	67	22.3%
9	薬物相互作用・禁忌	183	60.8%

表 31. 医療従事者が薬剤師に求める患者に伝えるべき薬剤情報

rankin g	医師	看護師	精神保健福祉士	作業療法士	臨床心理士	薬剤師
1	注意すべき副作用	効能・効果	効能・効果	効能・効果	効能・効果	効能・効果
2	効能・効果	注意すべき副作用	注意すべき副作用	注意すべき副作用	薬剤の特徴	薬の名前
3	薬の名前	薬物相互作用・禁忌	薬物相互作用・禁忌	薬剤の特徴	用法・用量	用法・用量
4	薬剤の特徴	薬剤の特徴	副作用が発現した時の対処法	用法・用量	薬物相互作用・禁忌	注意すべき副作用
5	用法・用量	副作用が発現した時の対処法	用法・用量	副作用が発現した時の対処法	副作用が発現した時の対処法	薬剤の特徴
6	薬物相互作用・禁忌	服薬中断時の注意事項	薬剤の特徴	薬の名前	注意すべき副作用	薬剤の管理方法
7	薬剤の管理方法	薬の名前	薬の名前	服薬中断時の注意事項	服薬中断時の注意事項	薬物相互作用・禁忌
8	服薬中断時の注意事項	用法・用量	服薬中断時の注意事項	薬物相互作用・禁忌	効果発現までの時間	服薬中断時の注意事項
9	副作用が発現した時の対処法	薬の作用持続時間	効果発現までの時間	再発のリスク	薬の作用持続時間	副作用が発現した時の対処法
10	緊急安全性情報（イエローレター）	効果発現までの時間	薬の作用持続時間	薬の作用持続時間	薬の名前	効果発現までの時間

表 32. 家族・当事者、入院患者が薬剤師に求める薬剤情報

rankin g	家族	当事者	入院患者	薬剤師
1	注意すべき副作用は何か	注意すべき副作用	効能・効果	効能・効果
2	他の薬との飲み合わせ	効能・効果	薬の名前	薬の名前
3	効能・効果	他の薬との飲み合わせ	注意すべき副作用	用法・用量
4	副作用が発現した時の対処法	薬理作用・作用機序	薬理作用・作用機序	注意すべき副作用
5	薬剤の特徴	副作用が発現した時の対処法	他の薬との飲み合わせ	薬剤の特徴
6	薬理作用・作用機序	薬剤の特徴	副作用が発現した時の対処法	薬剤の管理方法
7	薬の名前	緊急安全性情報	薬剤の特徴	薬物相互作用・禁忌
8	緊急安全性情報	服薬をやめる時に注意すべきことはなにか	用法・用量	服薬中断時の注意事項
9	再発のリスクについて	薬の名前	再発のリスクについて	副作用が発現した時の対処法
10	薬物体内動態	副作用が出ていないのか	薬物体内動態	効果発現までの時間

参考資料

精神科疾患の患者における薬剤管理指導業務のあり方に関する研究

薬剤師による薬剤情報の提供内容についてのアンケート調査用紙

(薬剤師用、医療従事者用、入院中の患者様用ご家族・当事者用)

薬剤師による薬剤情報の提供内容についてのアンケート調査

以下の質問事項について、回答は該当する項目に○を囲んで下さい。

1. あなた自身についてお尋ねします。

1) 年齢

- ①29歳未満 ②30～39歳 ③40～49歳 ④50歳以上

2) 精神科での経験年数

- ①5年未満 ②5年～10年 ③11年～15年 ④16年以上

2. あなたが医師・看護師に提供すべきと考える薬剤情報はどれですか？

<薬剤の基本情報>

- 1) 薬剤の特徴 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
2) 薬理作用、作用機序 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
3) 効能・効果 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
4) 用法・用量 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
5) 薬物体内動態 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
6) 薬価 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
7) 薬剤の管理方法 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

<臨床上重要となる薬剤情報>

- 1) 薬物相互作用・禁忌 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
2) 緊急安全性情報 (イエローレター)
(1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
3) 注意すべき副作用 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
4) 副作用の発現頻度 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
5) 副作用が発現した時の対処法
(1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
6) 効果発現までの時間 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
7) 腎・肝機能障害時の投与量
(1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
8) 催奇形成 (妊婦・授乳婦) のカテゴリー
(1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
9) 高齢者への投与量 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

- 1 0) 治療成績 (エビデンス) (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 1 1) 等価換算量 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 1 2) 薬の作用持続時間 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

<薬剤管理指導業務上で得た情報>

- 1) 効果の評価 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 2) 副作用の評価 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 3) 患者の薬物治療に対する意識
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 4) 患者のコンプライアンス*1
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
 5) 患者のアドヒアランス*2 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

3. 患者さまに伝えるべき薬剤情報はどれですか？ (複数回答可)

<薬剤の基本情報>

- 1) 薬の名前
- 2) 薬剤の特徴
- 3) 薬理作用、作用機序
- 4) 効能・効果
- 5) 用法・用量
- 6) 薬物体内動態
- 7) 薬価
- 8) 薬剤の管理方法

<臨床上重要となる薬剤情報>

- 1) 薬物相互作用・禁忌
- 2) 緊急安全性情報 (イエローレター)
- 3) 注意すべき副作用
- 4) 副作用の発現頻度
- 5) 副作用が発現した時の対処法
- 6) 効果発現までの時間
- 7) 腎・肝機能障害患者に対する注意事項
- 8) 催奇形成 (妊婦・授乳婦)
- 9) 高齢者へ薬物を投与する時の注意事項
- 1 0) 治療成績 (エビデンス)
- 1 1) 再発のリスク

1 2) 服薬中断時の注意事項

1 3) 薬の作用持続時間

調査にご協力いただきありがとうございました。

薬剤師による薬剤情報の提供内容についてのアンケート調査

以下の質問事項について、回答は該当する項目に○を囲んで下さい。

1. あなた自身についてお尋ねします。

1) 職種

①医師 ②看護師 ③精神保健福祉士 ④作業療法士 ⑤臨床心理士

2) 年齢

①20歳未満 ②20～29歳 ③30～39歳 ④40～49歳 ⑤50歳以上

3) 精神科での経験年数

①5年未満 ②5年～10年 ③11年～15年 ④16年以上

2. あなたが薬剤師から提供して欲しい薬剤情報はどれですか？

＜薬剤の基本情報＞

- | | | | |
|--------------|--------|--------|--------------|
| 1) 薬剤の特徴 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 2) 薬理作用、作用機序 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 3) 効能・効果 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 4) 用法・用量 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 5) 薬物体内動態 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 6) 薬価 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 7) 薬剤の管理方法 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |

＜臨床上重要となる薬剤情報＞

- | | | | |
|----------------------|--------|--------|--------------|
| 1) 薬物相互作用・禁忌 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 2) 緊急安全性情報 (イエローレター) | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 3) 注意すべき副作用 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 4) 副作用の発現頻度 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 5) 副作用が発現した時の対処法 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 6) 効果発現までの時間 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |
| 7) 腎・肝機能障害時の投与量 | (1. いる | 2. いない | 3. どちらでもよい) |

- 8) 催奇形成 (妊婦・授乳婦) のカテゴリー
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 9) 高齢者への投与量 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 10) 治療成績 (エビデンス) (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 11) 等価換算量 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 12) 薬の作用持続時間 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

<薬剤管理指導業務上で得た情報>

- 1) 効果の評価 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 2) 副作用の評価 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 3) 患者の薬物治療に対する意識
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 4) 患者のコンプライアンス*1
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)
- 5) 患者のアドヒアランス*2
 (1. いる 2. いない 3. どちらでもよい)

*1 医療者の指示に患者がどの程度従うかという概念

*2 患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けることを意味する。

(日本薬学会薬学用語解説より)

3. 薬剤師から患者さまに伝えて欲しい薬剤情報はどれですか？

(複数回答可)

<薬剤の基本情報>

- 1) 薬の名前
- 2) 薬剤の特徴
- 3) 薬理作用、作用機序
- 4) 効能・効果
- 5) 用法・用量
- 6) 薬物体内動態
- 7) 薬価
- 8) 薬剤の管理方法

<臨床上重要となる薬剤情報>

- 1) 薬物相互作用・禁忌
- 2) 緊急安全性情報 (イエローレター)
- 3) 注意すべき副作用
- 4) 副作用の発現頻度

- 5) 副作用が発現した時の対処法
- 6) 効果発現までの時間
- 7) 腎・肝機能障害患者に対する注意事項
- 8) 催奇形成（妊婦・授乳婦）
- 9) 高齢者へ薬を投与する時の注意事項
- 10) 治療成績（エビデンス）
- 11) 再発のリスク
- 12) 服薬中断時の注意事項
- 13) 薬の作用持続時間

調査にご協力いただきありがとうございました。